

令和3年度9月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和3年8月31日（火）午前11時00分～11時40分

場所 市役所2階 第1委員会室

出席 市政記者クラブ10社

会見内容

1. はじめに（1項目）

1. 新型コロナウイルス感染症について

- 日頃より市民の皆様には、新型コロナウイルス感染症の感染防止についてご協力をいただきありがとうございます。
- また、市内医療関係者、関係機関の皆様には感謝を申し上げます。
- 北海道が、新型コロナウイルス感染症対策のため、8月27日から9月12日まで緊急事態宣言の対象地域に追加となったことを受け、釧路市においても「一般措置区域」として、時短営業等、様々な対応のご協力をいただいているところでありますので、よろしくお願いいたします。

2. 話題提供（1項目）

1. 新型コロナワクチンの接種について

- 最初に、新型コロナワクチンの接種についてです。
- 8月30日までの、市内のワクチン接種状況は、12歳以上の市民、約15万3千人のうち、1回目の接種を終えた方は、約8万500人、接種率約52%、2回目の接種を終えた方は、約6万200人、接種率約39%となっております。
- 昨日8月30日から、「52歳から53歳までの方」へのワクチン接種を開始しているところです。
- 今後の予定につきましては、妊婦の方の予約が9月3日（金）から、接種開始が9月6日（月）を予定しており、接種会場は、「市立釧路総合病院」「釧路赤十字病院」となっております。
- 市内産婦人科に通院されている妊婦の方のご予約は、9月3日（金）から「新型コロナワクチンコールセンター」へ、妊婦であることを伝えた上で、ご予約をお願いいたします。
- 妊婦と同居されております配偶者およびパートナーの方は、事前登録が必要です。昨日8月30日から事前登録の受け付けをしておりますので、市ホームページにあります「優先接種事前登録フォーム」から、ご登録いただきますよう、よろしくお願いいたします。予約のご案内については、登録後、順次、発送させていただきます。
- また、「50歳から51歳までの方」につきましては、9月2日（木）に予約開始、9月3日（金）に接種開始できるよう準備を進めており、「49歳以下の方」

につきましては、ワクチンの供給の目途がついたことを受け、9月下旬から、準備が整い次第、順次、接種を開始する予定です。

- あわせて、接種を希望される市民の方に速やかに接種できるよう、9月13日（月）から、釧路フィッシャーマンズワープMOO 5階の多目的アリーナに特設会場を設置いたします。
- 医師会の皆様の協力も得て、1週間で1万回程度の接種が可能となりますので、11月中には、希望される方の接種が全てできる体制が整うことから、スピードアップをさせていけるものと考えております。

3. 質疑要旨

(質問)

- ・ MOOの特設ワクチン接種会場は、1日何人ぐらいの接種が可能なのでしょうか。また、釧路市観光国際交流センターで行った65歳以上の接種の時には、医師がなかなか確保できず、日給を引き上げたことがありましたが、MOOの特設会場での医師確保の目途は立っているのでしょうか。

(市長)

- ・ 現在の接種能力については、地元の医療機関・医師会を含めまして、1週間に8,200回となっております。今回のMOOの特設会場では、曜日によって変わりますが、日曜日は午前9時から正午まで、そして、午後1時から4時45分まで行う体制で、1日600人ぐらいの接種が可能です。他の日は、水曜日が休みで、それ以外の曜日については、今後、若い層の方々への接種になるということで、お仕事の時間も考え、午後3時から6時45分まで行う体制で、1日300人ぐらいの接種となります。1週間で接種可能な人数として医療機関で8,200人、MOOの特設会場で2,100人ということになりますので、1週間で1万回程度の接種能力の体制ができる形となっております。MOOの特設会場の方も、医師確保の目途が立ち、接種体制が構築できるということですので、準備を進めている状況です。

(質問)

- ・ 今回の医師の日給はどのぐらいですか。

(こども保健部次長)

- ・ 時給2万円です。

(質問)

- ・ 前は日給17万円ぐらいであったと思いますが。

(市長)

- ・ 前は、色々と日程によって時給が変わるものでしたので、スタートの段階で医師の確保が難しい状況であり、土日は医師を確保できましたが、平日の医師の確保が困難であるということや、全国での医師の取り合いという状況のなかで、私どもの1番高い時給が2万5千円でした。しかしながら、全国でいいますと、埼玉県では時給3万5千円という自治体もありました。今回は、時給2万円で医師の確保ができております。

(質問)

- ・ このたび確保した医師は、釧路エリア外から来てもらうということですか。

(市長)

- ・ はい、そうです。

(質問)

- ・ 現在、50歳から53歳までのワクチン接種が、段階的に年齢を分けた接種となっておりますが、その後の12歳から49歳は一括で接種を行うのでしょうか。

(市長)

- ・ こちらも年齢を分ける形の接種となります。現在、何歳ぐらいでのグループ分けにするかということを検討しております。先行的に行っている事例として、音別では、全世代の接種の予約等を進めております。それらの傾向を参考として、30代や10代等、実際の数を見ていきながら、5年ぐらい、7年ぐらいといった年齢刻みの枠になると思います。ただ、現在、いわれているとおり40歳以上の方々の接種は早めていかなければいけないものであると思っております。年齢が高いほど、重症化のリスクが高いといわれておりますので、スピードアップしながら進めていくことが必要であると思っております。順次、実施していきたいと考えております。

(質問)

- ・ 基本的に、年齢の高い順から進めていく考えでしょうか。

(市長)

- ・ 重症化のリスクを防ぐことがポイントになってくると思っております。高齢者の方ということで、65歳以上の方から接種をスタートし、もちろん、エッセンシャルワーカーとして、医療関係や施設等の方々、学校の先生等に対しても取り組んできたところです。このたびの妊婦の方々への接種につきましては、妊娠後期に重症化する可能性があることが産婦人科学会から示されているので、しっかりと行っていくよう進めております。

(質問)

- ・ 12歳から49歳までの接種が本格化しますが、接種希望者に対する終了の見込みは、いつぐらいになるのでしょうか。

(市長)

- ・ 11月末までには、全て終了する予定でおります。

(質問)

- ・ MOOの特設会場については、医師確保の他に、看護師の募集もされておりますが、医師と看護師併せて、1日何人ぐらいの体制で進めるのでしょうか。

(健康推進課課長補佐)

- ・ 医師につきましては、1日3名を予定しており、看護師につきましては、1日18名を予定しております。

(質問)

- ・ 看護師の募集は10月24日までということでしたが、MOOの特設会場の開設期間はいつぐらいまでとなるのでしょうか。

(市長)

- ・ 11月末までを予定しております。

(質問)

- ・ 医師が1日3人、看護師が1日18人ということですが、トータルで確保しなければいけない人数は、何人になるのでしょうか。

(市長)

- ・ 全体人数の数字は持ち合わせておりませんが、9月13日から11月末まで開設を予定している日数に、1日の従事者の人数を掛ける数字となります。

(質問)

- ・ 妊婦へのワクチン接種ですが、対象が釧路市内の産婦人科に通院されている方ということで、里帰り出産以外でも釧路町や近隣の自治体から市内の産婦人科に来ている方もいらっしゃると思うのですが、その方々も接種可能なのでしょうか。
(健康推進課課長補佐)

- ・ 釧路市外在住の方や市民でない方でも接種できるように、手配をさせていただきます。「市立釧路総合病院」「釧路赤十字病院」「足立産婦人科クリニック」、釧路町の「マタニティアイ」等で妊婦検診を受けられている方は、「市立釧路総合病院」と「釧路赤十字病院」で接種を進められるように準備をしているところです。また、里帰り出産で釧路に戻られている方につきましても、事前に健康推進課に申請をいただく必要がありますが、接種の対応をさせていただきます。

(質問)

- ・ 妊婦のパートナーの方々の接種の対応については、どのようにになりますか。

(市長)

- ・ 妊婦のパートナーの方々につきましては、事前登録をしていただき、予約の上、接種していただくことになります。

(質問)

- ・ 接種対象の妊婦の方は、どのぐらいの人数を見込んでおりますか。

(こども保健部次長)

- ・ 里帰り出産の方々等もおりますので、見込みとしては、300人程度とみております。

(市長)

- ・ 釧路市では1年間で900人ぐらいの子どもが生まれております。妊娠期の重症化リスクは、後期ということですので、そのタイミングの接種対象者ということで300人から350人ぐらいで、パートナーを含めると倍の700人ぐらいになると思われます。

(質問)

- ・ 3回目の緊急事態宣言ということで、市として独自の支援策は考えておりますでしょうか。

(市長)

- ・ 今回も、事業者支援という形で1億8千万円の交付金の配分がありましたので、現在、議会の方にどのようなことを実施するかについて、示していこうと相談しているところです。あわせて、この緊急事態宣言の中で、医療体制をどのような形で充実していくのかということも北海道に相談しているところです。医療体制は医師会の皆様方のご協力をいただきながら、しっかり構築しているところであり、私どもの所管している市立病院も、感染症の指定病院ということで、当初4床であったものを20床に増床し、対応してきたところでもあります。北海道も、軽症者用の療養施設ということで、ホテル等に120人の受け入れ体制をとっていただいているのですが、デルタ株の関係で、軽症や中等症の方の症状の急変が、全国でもかなりの件数が起きている状況です。軽症者等を個々で隔離するという状況から変わってきており、例えば、体育館のような広い施設で、急変が確認できるような形が望ましいといわれているところですので、我々の地域でも設置することができないか相談しているところです。これらの開設の際に、課題となる

ことが、ワクチン接種と同様で、医師の確保です。実際、現在の軽症者の療養ホテル等でも大変な状況で、看護師や保健師が見回りをし、対応を行っているところですので、人が少なくても対応できる形ということで考えますと、医療機関と速やかに移動ができる場所が想定されます。例えば、市立釧路総合病院のような総合病院の近くで、そのような施設ができると、感染者の症状の変化への対応が速やかにできるので、その点を相談しているところです。

(質問)

- ・ 現在の軽症者の療養施設と別に、総合病院の近くに、軽症や中等症で急変した場合に、すぐに処置・対応ができる施設を、道と相談して作れないかということでしょうか。

(市長)

- ・ はい。この件については、北海道が担っておりますので、私どもでは設置できません。また、先週金曜日に管内市町村長との会議の中でも、今の緊急事態宣言中に、対応の準備をしておくべき内容ではないかというお話をさせていただきました。

(質問)

- ・ 釧路市だけではなくて、釧路・根室管内でも感染者が増えたからということでしょうか。

(市長)

- ・ それを踏まえてということですか。私は釧路・根室の体制であるとお話しております。色々な病床数におきましても、三次医療圏ということでも出されておりますが、振興局を分けて、重症者と軽症者をカウントしていることもありますので、現実的には今、そのような体制を整備することが必要ではないかと考えております。

(質問)

- ・ 同様の施設は、道内にあるのでしょうか。

(市長)

- ・ ありません。状況に応じて変わっていくものであると思います。昨年の緊急事態宣言の段階では、多床室で対応していくことはありませんでした。現在は、感染された方のようなことが課題になっているのかということ、症状の急変です。個室の場合であると、見回りの頻度も上がるといったことがありますので、個室より多床室等で、症状の変化にいち早く対応できることが望ましいということになっております。

(質問)

- ・ 先日、日本製紙の釧路工場が停機しましたが、会社側から市の方にスケジュールの連絡があったのかという点と、今後、跡地活用と雇用に力を入れていくということですが、その後の状況は如何でしょうか。

(産業推進室長)

- ・ 先週、会社側とお話をする機会を持ちました。跡地については、今のところ検討を進めているというお話で、前回と状況としては変わっておりません。スケジュールにつきましては、雇用、配置転換等は、今のところ順調に進んでいると伺っております。停機のスケジュール等につきましては、現在、生産を既に停止し、配管類の清掃に従事していると伺っております。

(質問)

- ・ 日本製紙関係の雇用の確保という点で、鉏路市役所も社会人向け採用を行っているということですが、どのぐらいの応募があって、日本製紙関係の方もいらっしゃるのか、採用結果はいつぐらいに出るのか教えてください。

(産業推進室長)

- ・ 8月18日に合格発表を行っております。応募者総数は46名で、最終的に合格したのが7名、うち日本製紙関係の方は5名です。この他に、鉏路管内4町村では、応募者総数が全体で10名、最終合格者が4名、うち日本製紙の会社関係の方が2名となっております。

(質問)

- ・ 13日の停機式に、出席される予定はありますか。

(市長)

- ・ そちらのお話は、我々には来ておりません。

(質問)

- ・ 最近、工場長とお会いして話をしましたか。

(市長)

- ・ 私はないです。私がお社を訪問したのは、7月9日に本社の方に伺ったのが最後です。あの時も、これからの跡地のことについての作業は進めていただいております。色々なことを前に進めていくために、9月末まで現状の中で進めていくということでありました。10月から加速していきたいという話をさせていただいて、会社側にも了解をいただいている状況であり、色々と相談していこうと思っております。

(質問)

- ・ 一市民として、煙が出ていない煙突を見ると、どのような思いがありますでしょうか。

(市長)

- ・ ずっと鉏路におりましたので、寂しさは感じます。ただ、経済の変遷というものもある訳で、一つの業種業態が、どのぐらいもつのかということがあります。これも25年から30年ぐらいの中で変わりながら進んでいる実態や、全国の様々な事例があり、このようなことは全国各地で起こっていることも踏まえて、産業政策や経済政策は、様々あると思いますが、担っていく地元と連携しながら進めていくことが重要であると強く感じております。